日本女子大学「生涯学習総合センター」（仮称）案

キーワード

女性
エンパワーメント
生涯学習
社会活動支援
国際交流
情報
コンピュータ
ネットワーク
地域サテライト
マルチメディア

〈目　的〉

日本女子大学は二十一世紀がスタートする二〇〇一年に、創立百周年を迎える。創立以来の女性の自立と生涯学習の教育理念を、より広範に、より時代に即応して推進することを意図し、「生涯学習総合センター」を設置する。本センターは、学内外の学習、情報、社会活動のネットワークをつくり、リンクすることによってグローバルな視野に立って、生涯にわたる女性や市民・地域住民の学習活動や社会参加活動を積極的に支援し、生涯学習社会の形成、男女共同参画社会の実現に資するとともに、女性のエンパワーメントをはかることを目的とする。

より具体的ねらいとしては、次のようなことがあげられる。

①女性の学習・教育・生活に関連する情報のネットワークの構築
②国際交流活動の支援と積極的推進
③市民や住民に対する生涯学習機能の拡充強化
④卒業生の再学習や社会活動の支援
⑤マルチメディア時代への教育的対応
⑥在学生と卒業生のより緊密な連携協力関係の構築
⑦学生の社会感覚や社会的能力の向上

〈組　織〉

図参照

生涯学習総合センターの目的を達成するための下位組織として、百年館内に、活動拠点として次の4つの部門を置く。

①女性情報部門
②国際交流部門
③地域・社会活動支援部門
④マルチメディア教育部門

各部門には、部門長と事務担当者を置き、西生田生涯学習センター、総合研究所、成瀬記念館、コンピュータセンター、図書館、社団法人桜楓会、さらには外部の関係機関等との密接な連携のもとに、事業や活動を展開する。

各部門の運営にあたっては、桜楓会の国内支部の協力のもとに、あらたに本センターにいくつかのサテライト施設を設置し、各地域での事業の展開をはかることも考えられる。地域サテライトの活用により、各地域での本学に対するニーズや、公開講座に対する要望などの集約にも効果を発揮することになろう。

これら各部門を全体的に運営管理する組織として全学的な委員会（たとえば企画運営委員会）を設置し、全学の各組織の協力を得て、その委員会のもとに各部門の運営にあたることとする。この委員会は、生涯学習総合センターの事業や活動を企画立案するとともに、事業や活動の全体的調整をはかり、センター全体の運営を管理統括する。本委員会に委員長と委員会の事務を担当する事務組織を置く。

〈生涯学習総合センターの具体的内容〉

1．女性情報部門

本部門の役割は、学外の多様な情報センターとの情報の交流を行い、女性に関する幅広い情報を収集整理し、広く学内外に提供するとともに、本学からの独自の情報を発信することである。

本部門は、婦人教育情報センター（国立婦人教育会館）、ジェンダー研究センター（お茶の水女子大学、女性学研究所（東京女子大学）、日本国内の女子大学や女性関連施設、さらには外国の女子大学や女性関連施設との情報面での交流や連携をすすめ、女性教育研究の推進に寄与する。とくに、情報の発信は今後、一層重視しなければならない機能である。たとえば、World of Learning など世界の大学、研究機関一覧の日本の項目に、日本女子大学が掲載されていない現状を考える時、本学に関する情報を積極的に公開する必要を感じる。

本部門の事業や活動は、とくに各学部、通信教育課程、総合研究所、コンピュータセンター、図書館、成瀬記念館、桜楓会、事務部門などとの密接な連携協力が必要であるとともに、大学全体の強力な広報部門との連携のもとに運営されるべきものである。

［事業内容］

収集整理する女性情報の内容は、主として学外から収集する女性一般に関する情報、たとえば女性の成長・発達や教育、女子大学や女子高等教育、ジェンダー、女性史、ライフコース、生涯学習、職業（たとえば働く女性の職業や職種分野の統計、女性社長に関するデータなど）や社会活動（たとえば女性団体、世界の分野別女性リーダーに関するデータなど）等に関する情報と、本学独自の情報、たとえば、本学の現状に関する資料、本学の研究機関を含む）の歴史資料や歴代の学長・校長・園長、教職員、卒業生に関する情報、本学と卒業生に関する図書、学科・専攻別の提出論文テーマ一覧などである。

2．国際交流部門

本部門の役割は、国内や国外の大学や研究機関と連携しつつ、国際的な人的交流を促進することである。国籍、性別、年齢を問わない多様な人材をキャンパスに招聘し、キャンパスを活性化させると共に、学内の人材の海外での活動を支援する。

国際交流は、創設期に活発な国際的な人的交流を展開した歴史をもつ本学の伝統を二十一世紀に改めて復活させる意味で、本学にとって重要な意義をもつと考えられる。

本部門の事業や活動は、とくに各学部と大学院、総合研究所、国際交流委員会、桜楓会海外支部、海外の提携校、担当事務部門などとの密接な連携協力が肝要である。今後はより一層アジアを重視する必要があり、そうした意味では、本学の語学カリキュラムの再編成とも関連するであろう。

［事業内容］

各国の女子大学に所属する研究者、女性やジェンダーと教育をテーマに研究する大学院生等を客員研究員として招聘することによって、国際的な研究の場を提供する。とくに、本学の海外提携校である米国のウエルズリーカレッジ、米国のノッティンガム大学、ウォリック大学、カナダのマギル大学に加え、本学の歴史を重視する意味で、創立者が建学のモデルとした、米国東部の名門私立女子大学、いわゆるセブン・シスターズの中、現在でも別学を堅持するマウント・ホリョークカレッジ、スミスカレッジ、ブリンモアカレッジ、そして英国のケンブリッジ大学ニューナム・カレッジ（英文科E．G．フィリップス先生の母校）、韓国の梨花女子大学校、SNDT女子大学などの女子大学との研究者の交流を促進する。その他、講演会、セミナー、シンポジウムを適宜開催し、国際交流のための研究発表の場を設け、参加者の国際的視点を培う。また、国内外の女子大学、女性や生涯学習に関連する施設の見学等を企画・運営し、実施体験の機会を提供する。国際的活動として、ニューズレターを定期的に刊行し、事業内容を公開する。

3．地域・社会活動支援部門

本部門の役割は、大学の研究教育機能を社会に開放し、市民や地域住民の生涯学習ニーズに応え、さまざまな生涯学習プログラムや講座を企画立案し実施するとともに、また二十一世紀には、より広範な社会的分野で女性の活躍が期待されることから、本部門においては、できるだけ早い時期から女性が多様な社会活動に参加し、組織的相互、継続的学習を行うと同時に、当事務部門などとの密接な連携協力が肝要である。今後はより一層アジアを重視する必要があり、そうした意味では、本学の語学カリキュラムの再編成とも関連するであろう。

［事業内容］

本部門は、とくに西生田生涯学習センター、桜楓会との密接な連携協力のもとに運営する。

［事業内容］

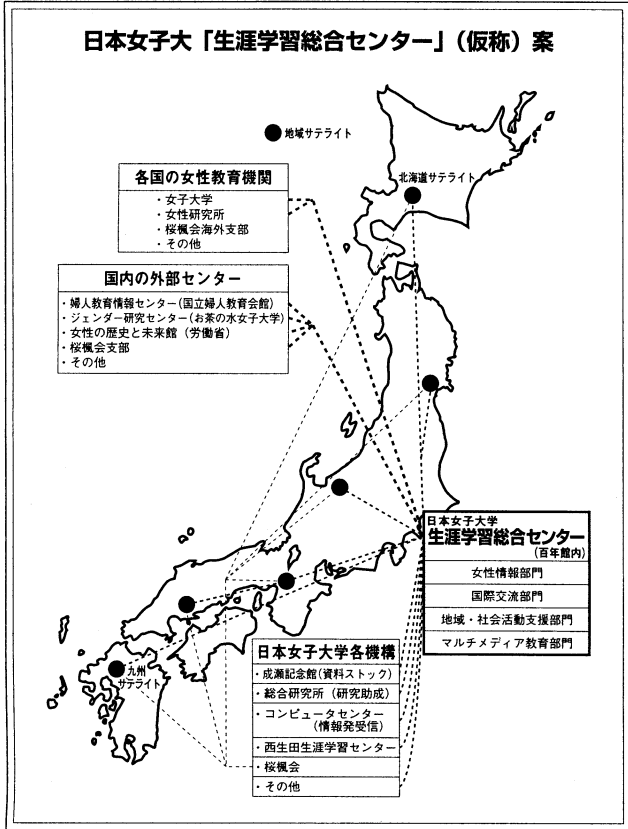
専門、教養にわたる多様なリフレッシュ・コースを設け、本学教員及び退職教員その他の専門家の協力を得て、比較的長期間にわたり、連続講義、あるいは演習形式での授業を行う。また、資格取得コースとして、司書教諭、社会福祉士、介護福祉士などの資格取得コースを設ける。

地域住民の教育問題コースも併設する。

それらと並行して、女性の自己確立・自己開発を援助する事業や情報提供を行う。たとえば、女性の生き方、ジェンダー論や女性学に関する講演やセミナー、自己表現能力・対人関係能力の開発、リーダーシップ養成などに関する自己開発支援プログラムを提供する。また、女性のキャリア開発を目的とした、企業その他の社会的諸機関・団体等との連携のもとに、在学中から職業人としての資質や能力を開発するとともに、コンピュータセンターと協力し、在学生や卒業生等のコンピュータリテラシーの向上を図る。

4．マルチメディア教育部門

［事業内容］

現在の通信教育課程の学科や専門領域をさらに拡充して本部門の機能として位置づける方向と、学士課程ではない生涯学習・生涯教育プログラムを発展させる方向が考えられる。現在の通信教育課程を拡充する方向をめざす場合は、全学的に通信教育を併設する学科を増やしていく方策が検討されるべきであろう。それにより、生涯学習の機会を増やすことにもつながり、通信制大学院への進展も期待できる。この場合にも、これまでの郵便手段からマルチメディアを利用した多角的な教育に発展することが望まれる。また、もう一つの方策としては、資格取得を中心とした生涯学習プログラムを、多様な通信手段やマルチメディアを用いて学習できるようにする方策が検討されるべきであろう。

いずれの場合も桜楓会とコンピュータセンターとの協力により、各地域のサテライト施設を活用することができれば、より多角的で効果的なメディア教育が期待できる。